

今月のPICK UP NEWS!



大学生が人吉の復興について提案

令和2年7月豪雨で被災した本市の地域活性化や観光復興を題材に、昨年10月から「課題探究プロジェクト演習」という授業に取り組んでいた尚綱大学現代文化学部（熊本市）の3年生が、2月27日、人吉の復興について松岡市長に提案しました。

「人吉に若い世代がもっと来るようなまちにしたい」をテーマに、レトロな街並みや郷土玩具きじ馬を活用した魅力づくりなど、人吉らしさを生かした提案を受けた松岡市長は、「皆さんが思い描くようなまちにして、人吉のファンになってほしい」と話しました。

提案書の内容は市のホームページで見ることができます。



▲市ホームページ



▲試行錯誤しながら被災物件の改修に励む小林さん



▲1階が食堂、2階は今後防災拠点に改修予定



人吉で輝いている人

「人吉がどこにあるかも知らなかったけれど、同じ県内で災害が発生しているなら、『支援に行かなきゃ』と思った」。豪雨災害支援で人吉市に来たことを機に移住し、今年2月に食堂を開いた。

令和2年7月豪雨の被害を知り、発災から3日後には熊本市から人吉に駆け付け支援を開始。壁や床剥ぎなど市災害復興ボランティアセンターでは対応できない作業を必要とする人と、支援者をつなぐ役割を担い、集めた情報と地図を頼りに被災者支援に奮闘した。支援を行う中で地元の人とつながりができ、「人吉は人がいい」と笑顔で話す。

災害後、街中の飲食店は休業や閉店で、飲食できる場所が激減。料理好きで飲食店を開きたいと思っていたこともあり、人吉で食堂を開くことを決意した。開業に向け、紺屋町にある被災物件を自分の手や仲間の力を借りて改修。コロナ禍での開業だったが、クラウドファンディングでの支援や応援の声に押され、不安よりも自信の方が大きかった。

子どもが好きで、子育てしやすい環境づくりにも関心を持つ。今後は幼い子どもが一緒でも気兼ねなく利用でき、災害が起こったときには防災拠点にできるような店舗を改修していく。「困ったときに、いつでも、誰でも頼れるような場所にしたい」

今月の表紙



春の訪れを教えてくれる桜が今年も市内各所で咲き、見る人を楽しませています。西間下町の道路沿いに連なるヨウコウザクラの鮮やかなピンク色は、元気を与えてくれます。

※掲載している人物の写真は撮影時のみマスクを外している場合があります。



オンラインで提案内容を説明（上）／被災状況や復旧・復興の現状について理解を深めるために人吉を訪れ地元関係者の講話を聞いたり、グループで議論したりし、それらをもとに5つの班に分かれて提案書を作成（左下・右下）

次回の広報配布は5月2日（月）です。